

## 菖蒲谷池採集の石器

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



写真1 菖蒲谷池で採集した石器

菖蒲谷池は、京都市右京区梅ヶ畑しょうぶだににあり、嵯峨野から北に約2km、標高230mほどの鞍部を越えた山間地にあります。清滝川に合流する北向きの谷をせき止めてつくられた溜池ためいけです。現在の菖蒲谷池は、西側に嵐山高雄パークウェイが走り、池の中央部西側にレジャーのための施設があります。周辺はゆるやかな傾斜の渚で、他の場所は水面近くまで山地が迫っています。

**発見の経緯** 1955年の秋、平安高校の考古学クラブOBであった一青年がこの菖蒲谷池を訪れ、池西側のポート乗り場周辺の水際で1個のチャート製剥片はくへん(写真3-5)を採集しました。その後幾度とな

く当地を訪れ採集をかさねたその中に、まぎれもなく先土器時代の遺物である2点のナイフ形石器註1を発見したのでした。

この2点の石器は1970年『古代文化』第22巻6号誌上で四手井晴子氏によって紹介され、同年秋発行の『京都の歴史』第1巻で「京都盆地とその周辺部は、(中略)全国でも数少ない先土器時代遺跡の空白地帯であった。したがって菖蒲谷池畔での発見は、遺物分布の空白地帯を埋め、しかもそれまで縄文時代にはじまると考えられてきた京都の歴史を、一挙に数万年以前にまでさかのぼらせる快挙だったのである。」と書かれています。



写真2 現在の菖蒲谷池(南から)



図1 菖蒲谷池の位置



写真3 先土器時代の石器

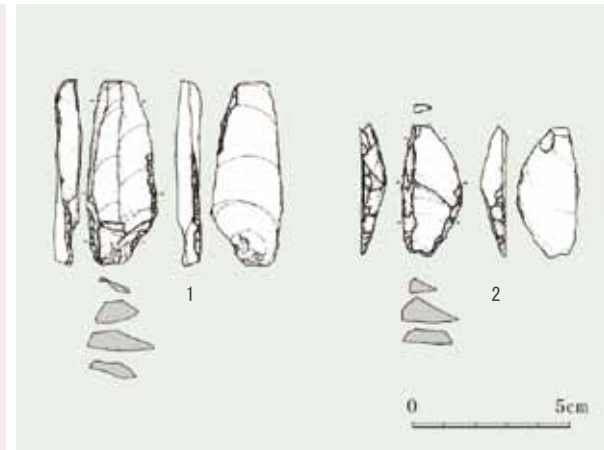


図2 写真3-1・3-2ナイフ形石器の実測図



写真4 縄文時代の石匙・石錐など



写真5 縄文時代の石鋸

**採集された石器** 菖蒲谷池遺跡からは、平安時代の土器類も採集されていますが、採集品の大半は石器類です。石器は、池中央部西側の南北約30mに限られた範囲から採集されています。採集品には<sup>註2</sup>石鋸、<sup>註3</sup>石錐、<sup>註4</sup>スクレイパー・<sup>註5</sup>石匙、ナイフ形石器、剥片・石核などがあります。今回すでに紹介されている2点のナイフ形石器以外に採集されていた石器を紹介します。

写真3・図2は先土器時代の石器で、1は基部加工を施したチャート製のナイフ形石器で縦長剥片<sup>註6</sup>を用いて作られています。2は剥離の方向ははっきりしませんがサヌカイト製の小型の切り出し形のナイフ形石器です。1・2ともに小型のナイフ形石器で既報告の資料も

小型のナイフ形石器です。3～6は加工痕または使用痕の明瞭な剥片石器です。3～5はチャート製で縦長剥片を用いています。6はサヌカイト製です。

写真4・5は縄文時代に属すると思われる石器で、写真4は石匙(11)、石錐(12～14)、その他加工された石器類です。石匙はサヌカイト製で未完成品のようなようです。12・13はチャート製で14はサヌカイト製です。写真5はすべて石鋸で、23・24・26・28・29はサヌカイト製で他はチャート製です。

**まとめ** 菖蒲谷の石器はチャートを石材に利用し、縦長剥片を素材とするという近畿地方では少ない特徴をもっています。その他、北嵯峨周辺の先土器時代の遺跡に

は沢ノ池遺跡と広沢池遺跡があります。ともにサヌカイト製のナイフ形石器を中心に採集されており、横長剥片<sup>註7</sup>を素材にした石器が中心です。このことから、菖蒲谷遺跡は京都盆地の先土器時代を考える上で非常に重要な遺跡であると言えます。(菅田 薫)

註1 ナイフ形石器/剥片を用いてナイフ形に仕上げた先のとがった石器  
 註2 石鋸/石の矢じり  
 註3 石錐/石製の穴をあける道具  
 註4 スクレイパー・石匙/ともに皮剥や石小刀として使われた道具  
 註5 剥片・石核/石塊から割り取られた薄い石片が剥片で、残った本体の方を石核という  
 註6 縦長剥片/縦長の剥片で、黒曜石やチャートなどガラス質の原石を素材とする際に作りだされる  
 註7 横長剥片/横長の剥片で、サヌカイトなどを素材に横剥ぎで作る鳥の翼に似ているので翼状剥片ともいい、近畿から瀬戸内地方で主に用いられる